

第3号
2011.7

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長洲2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

「にじのいえ信愛荘」に 迎えられて



荘長 有馬 歳弘

4月に突然
西東京教区議
長の大村栄牧

師から電話がありました。「月1回の運営委員会と、スタッフ会に出ればいいだけです。場所も同じ青梅に住んでおられるので」と依頼を受けました。長老会で相談してご返事することになりました。長老会では「無理をしないでください」との声もありました。賛成をしてくれました。思ってもみないことは神様のお計らいなのかと、迷いながら祈り、お引き受けることにしました。

前久山庫平荘長によって「にじのいえ」と「信愛荘」が合併して後の時を充分にお世話いただき、整えられた道を行く思いです。また、B棟の建築も成り、食堂も広く明るく、おいしい料理をいただいで皆様健康そうです。

4月は無理を願って久山先生の後について歩くようにして、

引き継ぎしていただきました。本当に感謝しています。正直、久山先生のように行くのかどうか不安です。そこは、施設長、事務長、介護主任、そして管理人、厨房主任と有能な方々によって支えられていますし、また優れた運営委員の方々によって守られていますので安心していきます。

この荘の周りは自然環境に恵まれています。先日、「鶯の美しい声を、朝も、昼歩いている時も聞いた」と喜んでおられる方がいました。

昔、もう少し若かった時に、教会青年会に誘われて谷川岳に登りました。ところが不甲斐なく夜行列車で眠れず地底のような駅を上って行くことで、疲れて自信を失い、他の人と別行動となりました。それでも、休憩所で少し休むと元気が出てきて、一人登り始めました。ここまてかな、と思って向こうを見上げると、行ってみたい景色があるのです。そうして、次につきにと登ってとうとう皆に追いついたことがあります。

入荘の先生方は、貴い働きをされて来られました。今、くつろい

だ日々を過ごしておられます。私としては、向こうに見えて、そこまで辿りついたら何が見えるのか、と興味が湧くのです。荘の一人、平松政恵さんは短歌を毎月「信徒の友」に投稿され、ほとんど入選しておられます。1913年生まれの若さです。5月号では「痛い時悲しくないのに涙にじむ人の体の不思議な構造」です。本当は痛いの、何か眺めているように「不思議」と言っておられます。こんなセンスで98歳を生活しておられるのです。

合併した「にじのいえ信愛荘」は東京教区・西東京教区・全国教会婦人会連合のみでなく、全国の教会・学校・幼稚園・信徒の方々に祈りと献金でお支えいただいておりますことを感謝いたします。このことは、長い奉仕を続けて来られた牧師、牧師夫人が全教会から、沢山の方々から、ご苦労さまでねざらわれているのだと思います。神さまから用意されたこの環境で平和な日々を過ごしていただきたいと真に願います。

大切な務めが果たせますようにお祈り下さい。

にじのいえ信愛荘

イースター

礼拝式・聖餐式・祝会

2011年にじのいえ信愛荘イースターは4月25日(月)午前11時より在荘者が中心となり、荘のスタッフや運営委員会のメンバーが参加する内輪のかたちで記念礼拝・聖餐式・祝会が行われました。

礼拝式

司式 久山庫平師

奏楽 土屋恵子師

・頌栄21・24「たたえよ、主の民」

・交読文詩編30編1〜4節

・聖書エレミヤ31章1〜6節

ヨハネ20章1〜18節

・祈祷

・讃美歌21・325「イエス・キ



リストは」

・説教「復活の主を告げる」

南房教会牧師 原田史郎師

・祈祷

・讃美歌21・327

・使徒信条

・聖餐式

司式 久山庫平師

配餐 小平正宣兄
篠宮秀雄兄



・讃美歌21・81「主の食卓をかこみ」

・献金・感謝 西村佳子姉

嶺 澄子姉

・頌栄21・28「み栄えあれや」

・祈祷 原田史郎師

・後奏

祝会

司会 施設長 横山利江姉

・にじのいえ信愛荘クワイア

指揮 土屋恵子師

「うるわしの白百合」「主の復活、ハレルヤ」「あめにはみつきい」

・愛餐

・新入荘者の自己紹介

安西貞子師 伊藤地塩師

加藤 実師 加藤 鈴夫人

・招待者紹介

・讃美歌497「あめなる日月は」

・久山庫平前荘長への感謝(記念品贈呈)

・有馬歳弘新荘長挨拶

・閉会の祈り

・閉会の祈り



にじのいえ信愛荘合併後はじめてのイースター礼拝は、主の復活を記念するのにふさわしい爽やかな空気のなかで執り行われました。主の復活を心に刻む聖餐の恵み、礼拝では南房教会の原田牧師より「復活の主を告げる」と題する説教をしていただきました。

神の存在のない者には、愛する者の死は希望と命を取り去る

もの、自分のすべてをかけて愛した、その愛するものを失った悲しみと絶望の中にあつて、途方に暮れるばかりのものであつた。しかし、墓の中で振り返ったマгдаラのマリアにとって、人の世とは正反對の神の栄光がそこにはあつた。復活の主イエス・キリストの存在は、すべてを希望へと変えるものであり、「主を見ました」と喜びをもって告げるマリアの行為は、今を生きる私たちにとつても信仰の確信といふのであることを学ばせていただきました。

礼拝、聖餐式終了後、多目的ホールにて、横山施設長の司会によつて祝会が行われました。にじのいえ信愛荘特別クワイアによる聴く者の心を豊かにする麗しい賛美。新入荘者の自己紹介。美味しい食事。とても恵み溢れる愛餐の時を送ることができました。

祝会終了後、去る3月5日召された梅沢清子姉を偲んで記念会が行われ、梅沢姉の愛唱讃美歌21・528「あなたの道を」を賛美し、飯澤弘子姉に姉妹の誠実な信仰生活の一生を語っていただきました。

(篠宮秀雄報)

イースターにちなんで

平松 政恵



クリスチャン
ホームに育った
ので何十回も迎
えた復活節、C

Sの皆勤者だった私は毎年の聖劇や活人画に必ず引っぱり出された。その年のテーマは復活の主イエスとマグダラのマリヤとの出会いであった。まだ十代の前半だった私は十字架刑の悲しみも復活の歓喜も此の体で表現する知恵も力もなく指導して下さる先生の言葉通り動くだけであった。イエス様の御遺体の無くなった園のお墓で茫然としていた私は突然「マリヤよ」と言うイエス様のお声に電気に打たれたように吾に返った。思わず「イエス様、ついて行きます。何処までも、何があっても」と叫んでいた。それは一瞬のことだった。復活されたイエス様が私に声をかけて下さった！あれから80余年。忘れられぬ復活節の思い出。何があっても主に従って行きますと誓った私は98歳を迎えた。

一生涯牧師の妻とし母として

脇役に徹し用いられたり

吾が耐え得る限度を知りて

用います

主の御愛に委せまつらむ

ガリラヤ湖畔の鶏鳴教会で

池田 貞子



それは1987年イースターの季節でした。私は受洗40年

を記念して、恩師森山諭先生の率いる聖地旅行の団に加えて頂き、初めてイスラエルの地を尋ねました。そしてガリラヤ湖畔の鶏鳴教会を訪れたとき湖に面した庭の棚囲いの中に、イエス様と弟子ペトロの銅像を発見したのでした。私は引き寄せられるように近づきました。そして思わず熱い涙が溢れ出てきたのです。若き日に、主の召命をいただいた時、「汝我を愛するか、さらばわが羊を養え」との御言葉が私の心に聴こえてきたことをずっと大切にしていまいりました。ヨハネ21章15節、18節の御言葉が召命の原点となっていました。ですから、受洗40年後に主イエスが歩まれた場所に導かれたことが、召命の再確認となったことを深く心に刻みました。年老いた今、にじのいえ信愛荘で、同労者が隠退後の生活を共に過ごしていることに、主に在る不思議な絆を感じます。天に召される前の貴重な時を大切に歩んでまいります。

安かれ

宮本 恵



あれは高校入学後初めてのイースターだったと思う。当時

福岡市内の教会では超教派で早天礼拝をまもっていた。その朝は大濠公園の中之島に集まり、ヨハネ福音書20章後半からメッセージが宣べられた。そこには「安かれ」との主のみことばが、三度記されていた。—— 当時は新約聖書の口語訳が普及し始めた頃だったと思う。因みに文語訳では「平安なんじらに在れ」であり、現行の新共同訳では「あなたがたに平和があるように」である。——

「安かれ」とはなんと簡潔で力強く、又主の深い慈しみに満ちたみことばであろうか。そして、そこには主が弟子たちに一番に伝えたいと思われたであろう、励ましの思いも充ちている。

あのイースターの早朝、私はこのみことばを主から直接にお聴きしたように感じた。以降、ピンチの時、道を決め兼ねる時、気不味いことになった時、病の中で、私はこのみことばを主に求めて力をいただいている。

黙示録と復活

柏井 宣夫



黙示録的状况だ、3月11日から私の頭を何度かよぎる言葉で

す。私は一年前まで福島県の旧鹿島町にいました（現南相馬市）。東北地方太平洋沿岸大地震と大津波に続いて、原発事故の放射能に脅かされています。

黙示録は、平穏な時に読むと現実離れしているように思えます。けれどもここには人類の長年の大災害の記憶が蓄積しているようです。

近代の科学技術の合理的世界は黙示録の対極にあります。その代表の一つが原子力発電でしょう。しかし一旦事故になれば黙示録的状况が出現します。「想定外」とは意味深長な言葉です。人間の知識には限界があります。想定外のことを常に想定しなければなりません。

復活の約束と希望が語り始められるのは黙示録でした。ダニエル書、イザヤ書などです。黙示録的状况のかたに復活の光が輝きます。イエスの死の時、全地は暗くなり、地震が起き、岩が裂け、墓が開いて、死者たちが生き返ったのです。復活の朝にも大きな地震がありました。



故 梅沢 清子姉
2011年3月5日 天召

梅沢清子姉の思い出

飛田 悦子

梅沢清子姉は一生懸命に生きられたお方でした。

聖日礼拝の時、私は隣の席に座しておりました。一生懸命で讃美歌を歌い、一生懸命で祈る方でした。梅沢家の後添いに嫁しられた愛姉は、4人の先妻様のお子様方を大切になさったと語っておられました。先妻様のことを「前の奥さん」と呼んでおられました。前の奥さんの子どもさんが自分の生んだ子どもを大切にしてくれて自分を助けてくれたと、よく語っておられました。

目をご不自由であられました、それを少しも感じさせない明るい生活をしておられました。お世話好きの方で私のこともよく気にかけて下さいましたので、

私は「牧師夫人の後遺症だ」と言っただけで済みました。

今は天国でご主人に仕え、前の奥さんと和やかに交わり、教会の方々のお世話にも励んでおられるであらうでしょう。愛姉のことを思っ心なごんでおります。

(在葬者)

梅沢清子姉を偲んで

祈りと証しの人

辻 哲子

2004年11月に「にじのいえ」に入居された梅沢さんとは、寝食を共にし礼拝と祈禱会の密度の濃い交わりを頂きました。余りにも急な旅立ちで驚き悲しみますが、沢山の感謝すべきことも甦ってきますので、その一つをお話したいと思います。

それは「にじのいえ」で祈禱会を始めるきっかけを作ってくれたことでした。ご入居の翌年、主日礼拝に「お祈りをして頂きたいです」と語られ、礼拝堂で悩みを話され共に祈った後「このよう祈りの時を持ちたいです」と。私も2001年に現地担当、宣教担当として、かねがね祈禱会を持ちたいと願っておりました。

集会委員の吉田トシ牧師も同じ思いであったことが分かり、早速有志で始めることにしました。

「信徒の友」(聖書から老いについて聞く)を輪読し、感話を語り合い祈りました。いつも生き生きと恵みを証する梅沢さんは、ある時、次のような話をされました。「ある本に信仰者でも祈れなくなる時があると書いてあったが、自分には夢にも考えられないことでした。いつも祈りのノートに50余名の方たちの名前があり、一人一人を覚えて祈っていました。2日前祈っている自分の傲慢さに気付かされ祈れなくなりました。しかしこの祈禱会でこの愚かな者も主にあつて祈れる恵みを改めて覚えました」と。

思えば彼女は1923年5月に横浜に生まれ、その年の関東大地震で父親を失い苦労され、戦後横浜根津橋(後の岡村)教会で受洗。その翌年(52年)奥様を亡くされた梅沢幸太郎牧師と結婚。先妻のお子様4人と実子2人を育てながら開拓伝道の労を担われました。その献身的な働きは、愛唱聖句「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さ

の中でこそ十分に発揮されるのだ」(コリントⅡ12・9)を体認されていたからでしょう。

また、十字架の贖いと復活の勝利を彼女は確信していました。従ってこの福音を人々に伝えたく、にじのいえのご近所や出会う人々に「こころの友」を配りました。この彼女の熱意に保守的な地域からひんしゆくを買うこともありました。良き賜物を持つていた方でした。

亡くなる数日前、病床聖餐を長浦教会島田敬子牧師より受け、また、このイースターに受洗決意した青年も同行したので、梅沢さんは大喜びで彼と固い握手の中、熱い祈りを献げたこととした。

祈りと証しのお人柄を通して、ご家族、教会の皆様は悲しみの中にも御国のご栄光に包まれていると信じます。天に凱旋された姉妹と共に、ご遺族及び参列者のお一人おひとりに天からの慰めと祝福がありますように、お祈り致します。

(前夜式弔辞
教団隠退教師)



青梅散歩

嶺 尚

にじのいえ信愛荘は、JR青梅線、東青梅で降り、多摩川を渡り徒歩で約30分位行った丘陵の下にあります。(小作や河辺からもバスに乗り20分で来ることもできます。)雑木林、竹林などに囲まれ、林を吹く風、きれいな空気が吹き、鶯など小鳥たちの囀りは一日中聞こえてきます。この辺りは鶯が多く、いつも空を鳴きながら飛んでいます。

私が信仰の家であり、終の住処ともいえる信愛荘に入っていたのは6年前のことでした。私は30年間も山の美しい青森県津軽に住み、その後埼玉県東部の平野地帯に移住し、山が遠くがっかりしていましたが、多摩丘陵の連なる青梅、奥多摩に移住して喜びました。山々が間近に眺められてとてもうれしくてほっとしていました。

にじのいえ信愛荘の日課は7時30分からの朝拝と朝食、11時30分からの昼食、17時30分からの夕食が主で、あとは入浴を適当な時間に行い、それ以外はいわば、各人の自由です。

私と妻の場合、荘に入ってから日課のように、荘の近くを散

歩するようにしています。早春には荘の入り口の道の端に可愛いくロッカスが咲きます。

荘の前を通る細い道は「調布道」と名付けられています。それは調布市と関係があるのかと思いましたが、それは無関係で、この地域に昔あった「調布村」の名前からとられているのです。荘の近所から「調布東通り」と「調布西通り」に分かれて続いています。その小道はさまざまに雑木の林や小川と交わりながら通っており、のんびり歩くのにふさわしい道です。その道には友田御岳神社、鹿島玉川神社、天祖神社、駒木野神社などの村社が600メートル、1キロごととにあり、散歩の目安や休憩場所として便利です。

神社は集落の人々の交わりの場としても大切な機能を果たしているようです。4月初めには天祖神社の下の傾斜地に紫色の可憐な片栗の花が沢山咲いています。また友田御岳神社の後の山には白百合が咲きます。

釜の淵公園は広々としてゆっくりに歩くのが楽しいです。土手の桜並木が見事です。公園の中には、かんぼの宿や郷土博物館や旧宮崎家住宅があります。多摩川で鮎釣りを楽しむ方や



奥多摩 (多摩川沿い)

ボートに乗る若者も見かけます。その上には青梅美術館があります。集落ごとに出す「山車」は長い伝統のある行事で、なかなか見事なものです。青梅は犯罪が少ないといわれていますが、地域共同体が生きているためかもしれません。自治会主催の運動会が盛んなのも、共同体が生きていることを感じます。

青梅の春は花が賑やかに咲いて美しく彩られます。梅は梅の公園のほか町中梅の花が咲き誇っています。青梅駅の裏手梅岩寺の枝垂れ桜は古木で見事なものです。建部凌岱の記念碑があります。凌岱は津軽藩士でしたが、江戸時代各地で俳人として活躍しました。また羽村土手

の桜は青梅の桜の名所です。

今、荘の中庭には花蘇芳が鮮やかに咲いています。散歩道に八重桜や山茶花や花蘇芳が美しく見られます。また芝桜、鈴蘭、水仙、チューリップなどの花々が咲いていて楽しいです。

東青梅から青梅街道方面に行くにつつじで有名な塩船観音寺や安楽寺があり、また吹上菖蒲公園では各種類の優れた菖蒲を見ることが出来、荘からも花見に行きます。

晴れた朝、荘の2階から東の丘から真っ赤な大きな太陽が昇って来るのが見え、感動的です。夕方は道路から西の山々に夕焼けが美しく輝くのを眺めて楽しんでいきます。

梅の公園の近くに吉川秀治記念館、またその奥の御岳溪谷に玉堂美術館や櫛かんざし美術館、また御岳美術館などがあります。

百合さきぬ 神の恵みの

豊けしや

空渡る 真昼の月の

美しき

風吹きて 木の葉揺るがす
自由さよ

嶺

にじのいえ信愛荘の

三年間の奉仕を終えて

前荘長 久山 庫平

人生には予期せぬことが、電話一本で起きるものです。当時荘長であった横山幸夫先生が、急に召されて、私の教会の担任教師としてお手伝いいただいた関係上、昔の言葉で言えば、召集がかかったようなものでした。

就任してすぐ、B棟の取り壊し、建築、そしてにじのいえとの合同、とまどうこともありました。しかし私の仕事は、荘の方々の日常生活を守り、お手伝いすること、このことに専念した3年であったと思います。

現在の荘は、加齢化して一番心配なことは、健康を保ち守ることにあると言えます。幸いに、青梅の町は病院、施設が整っており、牧師として、その家族としての尊厳が守られるよう、その方にとって必要な治療が受けられるよう、スタッフが努力していただけだと思います。運営委員会、スタッフ、ボランティアには大変お世話になりました。感謝いたしております。

近況報告

施設長 横山 利江

合併後1年が経ち昨年9月に行われた「献堂式」がきのうの出来事のように蘇りますが、ここ半年ほどの間にもにじのいえ信愛荘の毎日の歩みの中に、様々な出来事がいくつも綴られて参りました。11月末には「信徒の友」の取材を受け、にじのいえ信愛荘が紹介されました(2011年2月号)。その折、在荘の皆さまの全員写真(ご入院以外の方々)が載りましたがお一人お一人実に美しく良い表情で写っておられました。その最前列で穏やかに微笑んでいらつしやる梅沢清子さんは、たった3ヶ月後に主のもとへ帰られたのでした。合併後初めてのクリスマス礼拝、祝会では多くのゲストと共に主の降誕を祝いました。その中で「にじのいえ信愛荘クワイア」の賛美は多目的ホールに響きわたり、熱唱なさる在荘の皆様のお顔は輝いていました。

昨年10月から今年の3月の間に5人の方々、安西貞子先生、

伊藤地塩先生、高橋治先生、加藤実先生、鈴夫人がご入荘なさいました。しかし高橋治先生は突然のことでしたが、治療とリハビリを十分お受けになられる病院へと移られ退荘なさいました。短い間でしたが、本当に良いお交わりをいただきました。

石川深香子先生は、生活の中に、リハビリや治療が組み込まれている施設(町田市福音の家)へと移られお元気にお過ごしです。お二人共に主のお守りと支えの中に過ごされることを祈って止みません。ご入院、手術をなさった宮本信一先生と金井和子さんは、現在術後の生活を荘で大切に静養なさっておられます。

3月11日、東日本を襲ったあの大地震は青梅の里にも及び、体感する揺れはかなりのものではありましたが、幸い被害もなく荘内は落ち着いて静かでした。この日宿泊ボランティアで荘に向っていた北島和子さんは、立川の避難所で一夜を過ごされました。

計画停電を3回経験し、寒い時期のこともあり、皆様の健康維持が心配でしたが、大事に至

らず切り抜けました。危機管理ということ、真剣に考えるチャンスとなり今後の課題です。荘長の交代という大きな出来事と共に、新しい年度がスタートしました。何よりも在荘の一人お一人が安心して生活できる環境を整えて行けるよう、スタッフ一同心を尽くしてまいりたいと願っております。



◎全国教会婦人会連合からのお願い

旧「にじのいえ」の口座は既に閉じました。振込みは、すべて左記までお願いいたします。

振替口座番号…

001200-3-358467
加入者名…にじのいえ信愛荘

運営委員会報告

委員長 角谷多美子

にじのいえ信愛荘が新しい体制で運営を始めてから1年が経ちました。この間、たくさんの方の教会や教会員、キリスト教系の学校、団体、個人の方々から厚いお祈りとご支援をいただき、予算通りの積み立てをすることができましたことを感謝をもちまして報告申し上げます。

☆入荘者

昨年10月以降5名の方が入荘され、3名がご病気のため退荘され、現在23名の方々が静かな日々を過ごされています。

☆荘長交代

今年になって一番大きな出来事は荘長の交代です。久山庫平前荘長は今まで4年近く荘長を務められ、管理人の交代や合併という難しい時期をご指導くださいましたが、かねてより日本聖書神学校理事長の職に専念なさりたいとご希望でした。新荘長には4月より「にじのいえ信愛荘」に一番近く、今までもお付き合いのあった青梅教会の有馬歳弘牧師がご就任くださいました

ことを、関係者一同心より感謝しております。

☆東日本大震災

3月11日東日本大震災の日には翌朝まで連絡が取れず、心配しましたが、「にじのいえ信愛荘」は物が落ちることもなく、入荘者の皆さんも冷静であったとのことでした。けれども、人手不足を補うため、毎週金曜日にお願ひしている宿泊ボランティアの姉妹の一人が途中で電車が止まり、どこにも連絡が取れないまま立川市の宿泊所で一夜を過ごされるといいう経緯をされました。

☆基本計画検討小委員会

運営委員会は入荘者方が安心して過ごされるような、職員が喜んで働けるような施設をめざして検討を進めていくため、基本計画検討小委員会を設置し検討を始めております。

☆お願い

「にじのいえ信愛荘」の運営のため、今後とも一層のお祈りと御支援をお願い申し上げます。



建設献金終了報告

財務担当 朝岡 瑞子

2009年6月～2011年5月までの2年間に期限に、目標額5000万円の建築募金を呼びかけご協力をお願いしてきました。建築会計を閉じるにあたり、感謝をもちまして報告いたします。

「にじのいえ信愛荘」の運営母

建築会計報告

収 入		支 出	
繰入金(にじのいえ)	75,000,000	工事費	175,888,000
繰入金(信愛荘)	75,000,000	(B棟建築・A棟改修)	
献金(献堂感謝含)	51,969,568	設計監理料	13,671,000
雑収入	31,035	小計	189,559,000
合計	202,000,603	確認申請・印紙代	135,000
		土地測量	346,500
		地盤調査	157,500
		室内空気測定調査	299,250
		建物登記費用	107,900
		諸費用(献堂式費用含)	686,058
収支差額	10,709,395	合計	191,291,208

体3者がそれぞれ目標額を定め募金活動に励んでくださり、目標を大きく上回る献金が捧げられました。

また、良き設計者・施工業者をあたらえられ、追加工事も含め当初予算以内ですべての工事を終了することができました。運営委員会では、この施設が更に充実したものとなるように、剰余金は施設整備のため積み立てることを決定しています。

「にじのいえ信愛荘」が主のご栄光をあらわす所としていつまでも立ち続けますように。



今号は、イースターを主題にして在荘者の先生方に原稿をお願い致しました。誌面の制約で十分にお気持ちを表すことに不足があったようにも思いますが、今後とも協力を得て、より良き広報誌となりますよう努力してゆきたいと思ひます。

(篠宮秀雄)

莊日記



施設長 横山 利江

10月1日(金) 西東京教区婦人委員

7名来荘

宿直奉仕尾作聖子姉

10月4日(月) 西東京教区牧師夫人

の会13名来荘

10月7日(木) 井上医院健康診断

10月8日(金) 定例お茶の会19名

宿直奉仕飯澤弘子委員

10月11日(月) 岩戸五郎兄、児島あや

子姉庭木手入れ奉仕

10月14日(木) 婦人会連合「にじの

いえ信愛荘協力委員会」14名来

荘

10月15日(金) 宿直奉仕砂田巳智子

委員

10月19日(火) 安西貞子師入院

梅沢清子姉入院

10月20日(水) めぐみ幼稚園職員礼

拝奉仕 宮本信一師・宮本恵師

10月22日(金) 宿直奉仕池田節子姉

10月24日(日) 主日礼拝奉仕 竹井

祐吉牧師

10月25日(月) 相談会

10月29日(金) 宿泊奉仕松田町子姉

10月30日(土) 河辺伝道所・おうめ

幼稚園との昼食会

11月5日(金) 宿泊奉仕福島多恵子姉

11月9日(火) 国分寺教会金曜会来

荘

11月10日(水) めぐみ幼稚園母の会

清掃奉仕

11月12日(金) 定例お茶の会22名

宿直奉仕浅見多恵子姉

11月17日(水) 奥多摩へ紅葉狩り

11月18日(木) 千葉支区婦人会来荘

11月19日(金) 北島南科医院健診

11月21日(日) 霊南坂教会、岩槻教

会来荘(感謝祭果物、野菜)

11月24日(水) 南支区婦人会来荘

めぐみ幼稚園職員礼拝奉仕

土屋恵子師

11月25日(木) 井上医院健康診断

インフルエンザ注射

11月26日(金) 東支区壮年会来荘

宿直奉仕尾野明子姉

11月29日(月) 誕生会・相談会

教団出版局(信徒の友)取材

12月1日(水) 有間ダムへ紅葉狩り

12月3日(金) 宿直奉仕北島和子姉

12月4日(土) 高橋治師入荘

12月6日(月) 東京聖書学校11名来

荘

12月10日(金) 宿直奉仕金井弓子姉

12月13日(月) 相談会

12月16日(木) 井上医院健康診断

12月17日(金) 宿直奉仕田怜子姉

12月19日(日) クリスマス礼拝、聖

餐式 説教渡辺正男師

12月20日(月) クリスマス祝会62名

12月23日(木) 啓明学園中高中生29名

によるハンドベル演奏会

めぐみ幼稚園クリスマス会に4

名参加

日本福音青梅教会、キャロリン

グに来荘

宿直奉仕石井幸子姉

12月24日(金) 青梅教会、キャロリ

ングに来荘

1月7日(土) 宿直奉仕坂口和美姉

1月11日(火) 宮本信一師検査入院

1月14日(金) 北支区婦人委員会来

荘、定例お茶の会の皆様と交流

26名 宿直奉仕小中乃美子委員

1月18日(火) 西南支区音楽部7名

来荘

1月19日(水) 梅沢清子姉入院

1月20日(木) 井上医院健康診断

1月21日(金) 宿直奉仕竹田佳地子姉

1月25日(火) 岩戸五郎兄庭木手入

れ奉仕

1月26日(水) 宮本信一師退院

めぐみ幼稚園職員礼拝奉仕 藤

田小枝子姉 兄学同行高橋治師・

伊藤地塩師

1月28日(金) 宿直奉仕尾作聖子姉

1月31日(月) 誕生会(柏井雅子姉、

石坂大姉、影山邦子姉)

相談会

2月2日(水) 宮本信一師再入院

2月7日(月) 定例お茶の会23名

梅沢清子姉退院・市原市の長女

宅へ移られる

2月11日(金) 宿直奉仕朝岡瑞子委員

2月15日(火) 宮本信一師退院

2月18日(金) 白鷺教会婦人会20名

来荘 宿直奉仕辻哲子師

2月23日(木) 金井和子姉入院

2月24日(木) 井上医院健康診断

2月25日(金) 碑文谷教会婦人会17

名来荘 宿直奉仕池田節子姉

2月27日(日) 青梅教会有志来荘

(おしるこ会)

2月28日(月) 誕生会(和田信子師、

平松政恵姉) 相談会

3月5日(土) 梅沢清子姉召天

3月7日(月) 定例お茶の会12名

3月12日(土) 青梅プラネタリウム

観賞7名

3月14日(月) 金井和子姉退院

3月22日(火) 石川深香子師町田福

音の家へ入所

3月24日(木) 井上医院健康診断

3月25日(金) 宿直奉仕福島多恵子姉

3月28日(月) 誕生会(嶺尚師、嶺澄

子姉、金井和子姉、鷺見セツ子

姉) 加藤実師夫妻入荘

3月31日(木) 高橋治師退荘